

筑波大学 人文・文化学群

日本語・日本文化学類

College of Japanese Language and Culture
School of Humanities and Culture
University of Tsukuba



ようこそ、日本語・



皆さんは大学での学びにどんなイメージを抱いていますか。明確な目標をもって大学進学する人がいる一方で、義務感から決断した人もいます。学びの目的や動機は千差万別で、キャンパスで許容される差異が多様であればあるほど、それが大学の個性を伸ばし、魅力を高めることにつながります。なぜなら、大学での学びは、知識の吸収だけにとどまらず、新しい視点で物事を理解する姿勢を重視するからです。同質性の高い人ばかりでは、未来を切り開くブレイクスルーは期待できません。

日本語・日本文化学類では、日本語と日本文化をめぐる多様な事象を総合的に捉え、グローバルな視点から多文化との共存を主体的に考えることができる、人材育成を目標に掲げています。この目標の意味するところは、古典や先達の知見には敬意を払いつつも、それに決して満足することな



このロゴマークは、2004年に制定されました。学類関係者の公募により選ばれたものです。日本語・日本文化学類の通称「日日(にちにち)」から「日日草(にちにちそう)」を連想し、家紋風にデザインしたものです。

日日草は、暑さに強く初夏から秋まで咲き続けます。また仲間の蔓日日草(つるにちにちそう)は冬の間も根が枯れず、大変繁殖力の強い植物です。花言葉は「生涯の友情」「優しい追憶」「楽しい思い出」です。

伝えたい日本がある。

Our Message

日本文化学類へ！

く、興味ある対象について掘り下げ、大胆なアイデアと緻密な論理で自分の考えを組み立てる方法を学ぶことの大切さです。

そのために日本語・日本文化学類では、カリキュラムに工夫を凝らしています。留学生と協働で学修し、対話を通じて自らの考えを表現する機会や、国内外での実習を通じて、自分の言語と文化を振り返る実践的な学習の場を用意しています。また卒業研究では、複数の教員の指導による問題発見の場である演習も提供しています。そうした環境に身をおけば、おのずと日本語や日本文化に対する固定観念が揺さぶられ、その中身が刷新されるに違いありません。

このパンフレットにある「伝えたい日本がある」というメッセージは、4年間の学修を通じて、言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学といった専門性を高めつつ、日本語や日本文化に関して、自分の言葉で語れるようになるという到達点を指します。ぜひ皆さん、私たちと一緒にチャレンジしてみませんか。

筑波大学 人文・文化学群
日本語・日本文化学類長

鈴木伸隆

Contents

学類長あいさつ	1
日日生からのメッセージ	3
教員からのメッセージ	5
カリキュラム紹介	7
日日生の授業紹介レポート	9
国内実習・海外実習・日本語教育実習	11
チューター制度・留学生	13
海外留学	15
卒業論文	16
卒業後の進路	17
まだまだ知りたい学類 Q&A	19
入試案内・アクセス	21



日日生からのメッセージ



日日の先生方の授業は、それぞれの先生方が行っているご研究や興味関心・事例を交えながら楽しく授業をしてくださるので、本当に学びの多い日々を日日で過ごせています。また、先生との距離が近く、ランチミーティングなどで普段聞けない貴重なお話を聞くことができますので、とてもいい経験です。(亀山)

▶**教員からのメッセージ** (p.5)

日日では、日本語学や日本語教育学などの日本語分野や、文学や文化人類学、歴史学などの文化分野について幅広く学ぶことができます。その授業方法は様々で、実習をする授業が数多く用意されているのも特徴のひとつです。また、先生方が基礎から丁寧に教えてくださるので、無理なく楽しく学修することができます。(旭)

▶**カリキュラム紹介** (p.7)



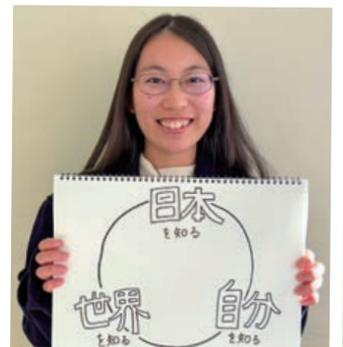
日日の授業では、日本語やそれを取り巻く文化・文学まで幅広く学び、その魅力を母語話者だけでなく非母語話者に教える方法も考えます。他言語への理解と合わせて、日本語への興味がますます深まりました!(インシラ)

▶**日日生の授業紹介レポート** (p.9)



普段意識されることは少ないですが、日本語も日本文化も私たちの生活と深くつながっていることを、授業や友人との学び合いが気づかせてくれます。日本を知ることを通して世界を知り、自分をも知る。そんな経験ができるのが日日の魅力です!(宮嶋)

▶**日日生の授業紹介レポート** (p.9)



日本語や日本文化を学ぶ際、知識も重要ですが、現地に行き、見聞きし、体感することも大切だと思います。日日では談話・方言・文化の実習があり、すべて事前学習・レポートへのサポートが手厚いため、安心して実習に臨むことが可能です。ぜひ「生きた学習」をしませんか?(長谷)

▶**国内実習** (p.11)

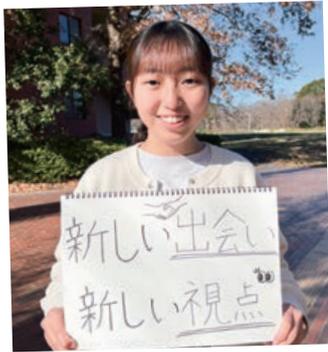
言語、食事、大学生活…日本から一歩出ると、そこには異なる文化が広がっています。私も韓国実習に参加して五感で感じるものすべてが新鮮に感じられました。そして、自分が当たり前だと感じている日本の文化についても考え直すきっかけともなりました。皆さんも海外実習で新しい世界に飛び込んでみてください!(大塚)

▶**海外実習** (p.11)



試行錯誤を重ねながら日本語教育のノウハウを学ぶことができます!私は教育実習を通して皆さんのことを吸収しました。実際に「先生」として授業をするので、日本語教育に興味がある人、何かを教えることが好きな人は必見です!(内藤)

▶**日本語教育実習** (p.11)



「大学での新しい出会い」それは必ずしも日本文化圏出身の人との出会いとは限りません。私達の常識を、世界の人々はどうのように感じるのでしょうか？日日には、日常的に多様な文化に触れ、新しい視点で世界を見つめ直す貴重な機会があふれています。(荒巻)

▶チューター制度・留学生 (p.13)

留学に行きたいけど不安な方へ。遅くはないです。足りなくはないです。無駄じゃないです。びったりな選択肢は、探せばきっと見つかります。行きたいという気持ちを大事に、日日で留学に挑戦してみませんか。(中山)

▶海外留学 (p.15)



日本語学、日本語教育、文学作品、映像作品、古典、国語教育、フィールドワーク……皆さんも日日で「好き」ととことん研究してみませんか？私は昔からずっと好きだった和歌と真摯に向き合って卒業論文を書きました。(小口)

▶卒業論文 (p.16)

日日生は、国語科教員・日本語教師・公務員になったり、企業や大学院に進んだりと多様な未来を選択しています。今まで想像もしたことのなかった夢が見つかるかもしれません。日日で好きなことを学んで、理想の進路へ踏み出しましょう！(宮崎)

▶卒業後の進路 (p.17)

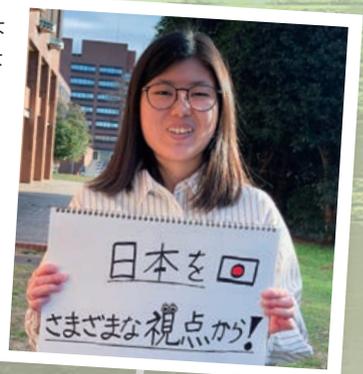


日日では、日本語教育・日本語・日本文化について学ぶことができます。日常的に接している日本語や日本文化も、授業を通してあらためて学ぶことで、これまで漠然と感じていた特徴を明確に捉えられるようになります。(頭島)

▶Q&A 学習編 (p.19)

日日の魅力の一つは、小規模なため友達を作りやすい・仲良くなりやすいということです！学修においては、日日だけでなく、もちろん他の学群や学類の講義も受けることができます。日本語・日本文化をはじめとした新たな視点を見つけられるのも日日の魅力です。(杉田)

▶Q&A 生活編 (p.20)



教員からのメッセージ

日本語・日本文化学類は、ひとつの事象や課題を多角的に考察する力、問題発見・課題解決のために実践する力、そして、多様な背景の人たちと課題を共有し、ともに解決していける力を有する、文化の創造者たる人材を養成することを、教育の目標としています。

すべての学生が、日本における言語・文化事象を総合的に捉え、グローバルな視点で理解する力を養えるように、学際的な専門科目を多数用意し、様々な専門領域の教員が、みなさんをお待ちしています！



石田 尊 ISHIDA TAKERU

日本語学
Japanese Linguistics

日本語における他動性（他動詞らしさ、他動詞文らしさ）や、受動文などのヴォイス現象に特に関心を持ちつつ、日本語の文法を研究しています。授業では日本語の歴史や方言も扱っています。日本語はどのような言語か、どうして今のような姿になったのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。



今田 水穂 IMADA MIZUHO

日本語学・コーパス言語学
Japanese Linguistics / Corpus Linguistics

我々は複雑な思考や情報を、いかにして限られた単語の列で伝達するのでしょうか。また、ごく限られた単語の列から、いかにして複雑な情報を取り出すことができるのでしょうか。我々がどのように思考を言語化し、伝達を効率化し、意味を解釈するのか、言語と意味の関係について考えています。

受 験 生 の



鈴木 伸隆 SUZUKI NOBUTAKA

文化人類学
Cultural Anthropology

文化人類学は、人びとの生活そのものを調査研究の対象としています。非常に間口が広いことが特徴です。人間が対象を捉える眼差しは、いろいろな欲望や偏見に満ちています。人やモノが世界規模で移動する時代だからこそ、自分を相対化する人類学的な視点は重要です。



田中 祐輔 TANAKA YUSUKE

日本語教育・国語科教育・日本語学
Studies of Japanese Language Education / Japanese Linguistics

日本語教育の視点は、みなさんが世界に雄飛される際に、また、持続可能な世界構築に向けて人々と協業する際に基盤となる知見を与えてくれます。是非、学際性・国際性豊かな筑波大学の日本語・日本文化学類で、言語・文化・社会に関する専門性の高い学修と研究に取り組み充実した学生生活をお過ごしいただければと思います。



江口 真規 EGUCHI MAKI

日本近現代文学・比較文学
Japanese Modern and Contemporary
Literature / Comparative Literature

研究テーマは、日英文学作品における動物の表象(特に羊)と、その理論的枠組みとなる「アニマル・スタディーズ」です。授業では、翻訳や動物といったテーマから、日本文化を相対的・客観的に捉え、異文化を背景とする人々に伝える知識と力を身に付けてもらいたいと思っています。



小野 正樹 ONO MASAKI

日本語教育学・日本語学
Japanese Language Education /
Japanese Linguistics

日本語を中心とした言語表現と言語行動との関係を、ポライトネスの観点から見ています。世界の日本語教育に関心があり、中でもウズベキスタン・カザフスタンなどの中央アジア地域との交流や、オンライン日本語教材開発にも取り組んでいます。



澤田 浩子 SAWADA HIROKO

言語学・音声コミュニケーション研究
Linguistics / Speech Communication Studies

私たちが生きて生活していくうえで、他者とのコミュニケーションは避けて通れません。人間が社会で生きるとはどのようなことか、ことばの側面から考えていきたいと思っています。授業では、学生たちと一緒にフィールドワークに行ったり、外国人児童生徒の教育課題についてプロジェクト活動をしたりしています。

皆

さ

ん

へ



朴 宣美 PARK SUNMI

近現代日朝文化交流史・ジェンダー史
History of Cultural Exchange in Modern Japan
and Korea / Gender History

私は社会文化史・ジェンダー史の観点から近代日本や朝鮮を考察しています。19世紀末から20世紀前半にかけて、西洋から朝鮮・日本へ、日本から朝鮮へ、朝鮮から日本へと渡った様々な人々(特に女性たち)の移動を明らかにし、それによって普及した新しい考えや「知」について研究しています。



三好 優花 MIYOSHI YUKA

日本語教育文法・日本語学
Japanese Pedagogical Grammar /
Japanese Linguistics

Japan-Expert(学士)プログラム日本語教育コーディネーターをしています。専門は日本語教育文法で、「ある文型が実際にどのような文脈・状況で使われるのか、なんのために使われるのか」ということについて、実例をもとに考察しています。みなさんも、普段使っている日本語について一緒に考えてみませんか。

カリキュラム紹介



教育の目標と特色

筑波大学学士課程の教育目標および本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（文学）の学位が授与されます。

- グローバルな視点から日本における言語・文化事象を総合的に捉えるための専門知識（言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学など）と探究能力・研究手法とを修得している。
- 異言語・異文化を背景とする人たち、次世代の人たちと課題を共有し、ともに解決していくことのできる言語運用能力、情報処理能力および異文化コミュニケーション能力を身につけている。

本学類への進学は、推薦入試やアドミッションセンター入試等によるほか、前期日程試験による受け入れに加え、総合選抜を通じて1年次は総合学域群に所属し、2年次から本学類に移行する方法があります。

総合学域群も本学類も、複数の専門領域の学修を通じて、様々な問題を多角的に捉える力の獲得を目指しています。この目標のもと、本学類では総合学域群から円滑に移行できるようなカリキュラムを編成しています。

体験記

地場 亮介【1年次:総合学域群 → 2年次:日本語・日本文化学類】

日日は日本語教育や日本文化、日本語学を学ぶ上で最高の環境です。1学年40名程度の規模の小さな学類ですが、その分、先生と学生の距離が近く、学生同士や先生との仲も良いので楽しく勉強することができます。

日日には推薦入試や前期入試のほか、総合学域群から移行することもできます。移行制度は、1年生の頃に総合学域群で授業をたくさんとって、様々な学群・学類の雰囲気を感じながら移行先を決める制度です。

日日に移行してくる学生がいることを前提にしたイベントもあり、交流会やスポーツ大会など、総合学域群生が馴染みやすいようになっていて、孤独を感じることはまったくありません!!もし日日に興味を持ちましたら、ぜひ日日へいらしてください!!お待ちしております!



授業内容

育成する能力とカリキュラムの構成

		1年	2年	3年	4年
専門科目	総合的な分析能力と問題発見、解決能力の統合			総合演習導入 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ	卒業論文演習Ⅰ 卒業論文演習Ⅱ 卒業論文
	多様な背景の人たちと課題を共有し、ともに解決していくことのできる能力		国際・協働科目群：共同研究、対話実習、教育実習、フィールド実習、国際研修、インターンシップ		
	グローバルな視点から日本における言語・文化事象を総合的に捉えるための専門知識		日本語科目群：日本語の音声・音韻、日本語の文法、日本語の語彙、日本語の談話、日本語の語用論、言語と文化、日本語コーパス分析、ほか 多文化共生・日本語教育科目群：日本語教育文法論、日本語技能指導論、日本語教育心理学、日本語教育史、海外の日本語教育と日本学、多文化の中の日本、ほか 日本文化科目群：近代日本の文化交流、日本の宗教と芸能、国語科教育と文学、中国文学と日本文学、世界文学と日本文学、ほか + 人文学類、比較文化学類、社会学類社会学専攻の専門科目		
専門基礎科目	日本語や日本文化、多文化共生社会のあり方に対する基礎的な知識と明確な問題意識の醸成	日本語教育学特別演習、海外語学研修			
		専門英語A,B,C			
		日本語・日本文化研究法、概論科目 + 人文学類、比較文化学類、社会学類社会学専攻の専門基礎科目		学際科目(専門導入科目)： 共生のための社会言語学、共生のための日本語教育、共生のための人類学、共生のための歴史学、日本文学と文化	
基礎科目	広い視野からの専門分野の発見と位置づけ	共通科目			
		関連科目			

1年次

- 共通科目および専門導入科目、さらに他学類のカリキュラムから幅広く専門基礎科目を履修することで、広い視野のなかで、自らの専門分野を発見し位置づけます。

2年次

- 専門科目を通して、言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学などに関するバランスのとれた知識の獲得を目指します。
- 実習、留学生との合同授業、国際研修などの実践的な科目を通して、異言語・異文化との接触の中で、自国語・自文化に対する問題意識を醸成します。
- 専門英語などを通して、研究および発信ができる外国語力(特に英語力)を身につけます。

3年次

- 実習などの実践的な科目において、問題意識を深め、解決のための応用力・実践力を向上させます。
- 演習などのより専門的な科目を履修しながら、卒業研究のテーマ設定に向けて、総合的かつより高度な知識と研究方法を身につけます。
- 専門科目の学修から卒業論文作成への架け橋となる総合演習は、各教員の専門性を生かしつつ複数教員がグループ指導を行うもので、これにより、ひとつの事象、課題を多角的・立体的に考察する力を身につけます。

4年次

- 卒業論文執筆を通して、全人格的・総合的な分析能力を高め、問題発見、解決能力の統合をめざします。

日日生の授業紹介レポート

日本語・日本文化研究法

【石田 尊 先生・鈴木 伸隆 先生】

論文のテーマ設定におけるコツや先行研究の探し方、論文の書き方など、研究における基礎を学べる授業です。学んだことを実践できる課題が出され、本格的な研究を始める前の練習になります。先生方からのフィードバックも手厚く、論文を執筆する際の不安や疑問を解消でき、大学を通して使える技術を培える授業です。 (寺内 亜澄)



日本語コーパス分析【今田 水穂 先生】

様々なテキストを収集し電子化したもの、それが「コーパス」です。この授業では、コーパスを用いて効果的な言語研究を行うための手法について学びます。実際に解析ソフトに触れたり、パソコンを使う作業が多いですが、作業ごとに十分な時間が確保されているので、操作が苦手な私でも授業についていくことができました。 (中村 こころ)



世界文学と日本文学【江口 真規 先生】

アニマル・スタディーズをテーマにする文学作品の講読を通して、文学と動物の関わり合いについて考えを深めます。簡単に理解できる内容ではありませんが、身近な問題に引きつけて解説して下さるため、安心して授業に参加できます。期末レポートは、自ら書いた小説を提出するという珍しい形式で、貴重な体験ができます。 (寺山 智晟)



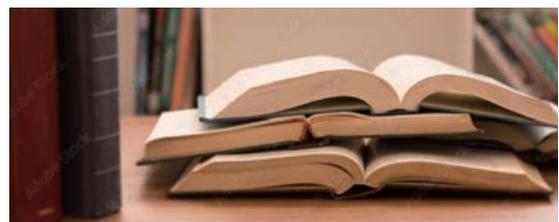
日本語方言論【石田 尊 先生】

日常の中で聞きしったり自分自身が使うこともある“方言”ですが、これらの文法的特徴について丁寧に考える機会は少ないのではないのでしょうか。この授業では、地域や世代における違いに着目しながら、方言を分析していきます。授業では方言研究を行う上で活用される多様な資料も取り上げられるため、幅広い視点から方言について考え、学ぶことができます。 (荒巻 光里)



日本の文学概論【江口 真規 先生】

『源氏物語』にある和歌はどのように英訳されると思いますか?その英訳を読んだ際、私たちはどのように感じるのでしょうか。この授業では日本の文学作品の原文と英訳を比較し、文学と翻訳について基本的な知識を学びます。英訳を読むのは大変ですが、日本語・日本文化の特徴について理解が深まります。文学の面白さと新たな視点に気づくことができる楽しい授業です。 (古山 優衣)



日本語の語用論【小野 正樹 先生】

日本語語用論の授業では、同じ発話でも場面や人間関係によって意味や印象が変わることを学びます。私も会話例や映像資料の分析を通して、謝罪や依頼表現が社会的距離や立場に応じて調整されることに気づきました。日常会話を無意識にではなく、客観的に捉える視点を身につけることができたと強く感じています。 (山田 圭太郎)



日本語の談話【澤田 浩子 先生】

「じゃあ、そろそろ」の一言で会話が終わるのはなぜでしょうか？そこには、お互いが無意識に発している「合図」と「ルール」が存在します。この授業では、そのような会話の中に隠された法則を宝探しのように見つけ出します。当たり前の日常会話が、分析対象という冒険の場に変わる。そんな言語学ならではの面白さに触れてみませんか。

(村井 穂香)



多文化の中の日本演習【鈴木 伸隆 先生】

「差別是正」をめざし、米国で導入されたアフーマティブ・アクション。それはどのようにして導入され、批判され、形を変え、やがて廃止されるに至ったのか。その背景にある、アメリカ社会の分断はどのようなものだったのか。考えていくうちに、この問題が実は日本にも共通するものであるという現実が見えてきます。

(後藤 生穂)



日本語教育史【田中 祐輔 先生】

日本では、なぜ外国人生徒が増えているのか。日本語教育は現在何を求められているのか。日本語教育の成り立ちから、今日に至るまでの過程を学びます。歴史と世界情勢を通じて日本語を教えることの意義を改めて認識できる授業です。教育現場の映像や教材資料を豊富に使用しており、日本語教員試験対策も意識されています。

(桑島 みずほ)



東洋の歴史と文化【朴 宣美 先生】

例えば8月15日は、日本では「終戦記念日」ですが、韓国では「光復節」、北朝鮮では「解放記念日」と呼ばれ、日本の植民地支配から解放され主権を回復した日として認識されています。東アジアの国々は同じ歴史を共有する部分も多いですが、国ごとに捉え方は大きく異なっています。この授業を通してさまざまな立場の視点から歴史を学び直すことによって、多文化共生に必要な広い視野を養うことができます。

(大塚 那々世)



日本語教育文法論【稗田 奈津江 先生】

学校文法と日本語教育文法の違いを学び、日本語の文法を日本語学習者の視点から捉え直すきっかけとなるような授業です。学んだ文法に基づいて学習者向けの例文を作成する授業では、稗田先生の現場経験から得た知見のフィードバックを受け、日本語の文構造や格助詞の意味について考え直す機会となりました。

(稲熊 空)



日本語教育学特別演習【三好 優花 先生】

日本語教育能力検定試験の過去問の解説を受講生が順番に演習形式で行います。ただ問題を解くだけでなく、その解説を考えることでより日本語教育の知識を深めることができます。検定試験の対策としても日本語教育学の知識を深めるためにも有意義で、私は実際に受講後に検定試験を受験し、無事合格することができました。

(山田 千照)



国内実習・海外実習・日本語教育実習

国内実習

ひとくちに日本文化といっても、自分が育った環境だけが日本文化ではありません。教室を離れて実際に現地を訪ねることで、それぞれの地域に根差した多彩な生活・文化と人々の存在に触れることができます。



- ◎フィールド実習（「日本語方言研究フィールド実習I/II」）
（「日本語談話研究フィールド実習I/II」）
（「日本文化研究フィールド実習I/II」）

体験記

日本語方言研究フィールド実習



この実習では、茨城県の県西・県南地域をフィールドに方言の単語や文法体系を記録し、分析します。2022年は常総市、2023年は坂東市へ方言調査に行きました。「この地域の人はこんな言葉を使っている」というなんとなくのイメージはみなさんにもあると思いますが、実際に調査してみると、集落を1つまたいだだけで語形が異なったり、同じ地区出身の人でも言い方が同じでなかったり、多様なことばのあり方を実感することができます。共通語の影響で失われつつある言葉があると知り、「自分の祖父母はどんな言葉を使っていたかな」「自分の話している言葉はどうだろうか」と考えるきっかけにもなりました。方言に興味のある人だけでなく、地域の文化や生活に興味のある人にもおすすめです。

（与謝野 凱）

海外実習

本学類では、実践性と国際性を重視し、海外で行う実習の科目「国際科目」を提供しています。日ごろ教室で学んだ知識を異言語・異文化を背景とする人たちとの交流の中で見つめなおすことにより、異文化理解、国際交流を身をもって体験することができます。



- ◎スロベニア実習（「日本語・日本文化国際研修I/II」）
- ◎韓国実習（「日本語・日本文化国際研修III」）
- ◎マレーシア実習（「日本語教育国際研修I/II/III」）

体験記

スロベニア実習



この実習では、リュブリャナ大学で日本語を学んでいる学生のみなさんと交流します。学生によるスロベニア語の授業を受けたり、日本語や日本文化についてのプレゼンを行ったりと、異文化交流がとても盛んでした。学校が終わると、カフェに行ってカードゲームや会話を楽しむ毎日、週末には現地の学生と一緒に観光しました。また、日本語を学ぶ子どもたちと交流する機会もありました。遠く離れた場所でこんなにも日本に興味を持っている人たちがいることを実感して喜びを得るとともに、異文化交流の楽しさや大切さを改めて感じました。私はその後、この実習で出会ったリュブリャナ大学の学生のチューターをしました。学びだけでなく、大切な出会いをたくさん得られる実習だと思います。

（坂口 和佳那）

日本語教育実習

本学類は、日本語・日本文化を総合的・相対的にとらえ、異文化を背景とする人々に適切に発信できる知識と能力を身に付けた人材を育成するという教育目標のもと、日本語教育に力を入れています。



- ◎国内教壇実習（「日本語教育実習」）
- ◎遠隔日本語支援（「外国人児童生徒支援実習I/II」）

体験記

日本語教育実習



この授業では、教授法や教科書分析の理論を学ぶだけでなく、CEGLOC、日本語学校、地域の日本語教室の三か所で見学実習を行いました。実際の教育現場を見学することで、授業の進め方や学習者の様子、使用教材について具体的に理解することができたと感じています。特にCEGLOCでは、実践授業で担当するクラスを事前に観察でき、教室や学習者の雰囲気を知ることができました。実践授業では既習文法の復習を行いました。文法の再確認と復習のバランスを取ることが難しく、授業準備に苦労しました。しかし、模擬授業での先生からの助言や学生同士の意見交換を通して、より効果的な授業ができたと感じています。日本語教育に興味のある人にとって貴重な経験になると思います。

（NGUYEN THI BOI TRAM）

日本語談話研究フィールド実習



私は愛媛県の大三島に調査に行きました。実習前の事前学習で、調査の手法だけでなくその地域の祭りや風土などを仲間とともに調べるので、実際に行ってみると聞き取りは案外スムーズに進められます。しかし、実際に行ってみると事前に調べていた以上のことを体感できます。お昼ご飯を一緒に食べながら

地域の料理について教えてもらったり、集落と一緒に周って空き家や人口減少の現状を聞いたり、実際にそこで生活する方々の口から語られる言葉は厚みがあります。私自身、大三島での経験から将来はそういった方々の思いや生の声を伝えていく仕事がしたいと考えるようになり、今も就職活動に向けて情報収集を進めています。これからの自分の学習や進路に大きな影響を与えてくれた実習です。

(佐々木 奎)

日本文化研究フィールド実習



この実習では、実際に国内の地域を訪れてその地域の文化について、歴史・産業・市民社会などそれぞれ設定したテーマで調査します。今年度は京都府の舞鶴市で実施されました。私は舞鶴市の音楽文化を調査テーマに設定し、イベントの運営者の方、市役所の方、商店街で出会った市民の方など、様々な立場の方にお話を伺いました。インタビューの計画は事前に準備しますが、時には偶然出会った方のお話が思わぬヒントになることもあり、事前準備の重要性に加えて現地の方と積極的に交流する面白さも実感しました。そうして自分の足で集めた情報をつなげてじっくり考えることで地域文化に対して多くの新しい視点を得られたことは、フィールド実習ならではの貴重な経験になったと感じています。

(土岐 千紘)

韓国実習



日本と韓国の歴史について理解を深めるために韓国を訪問し、ソウル、釜山、大邱などの都市をめぐる、学生がそれぞれ設定したテーマで調査をします。日本と韓国は、しばしば「近くて遠い国」とも言われますが、その言葉が示す通り、遠く感じている人も多いのではないのでしょうか。しかし、実習を通じて現

地の人々と出会い、実際に話をすることで、韓国をより近くに感じることができました。交流する人の中には、高校生、大学生、高校の歴史科教員、「旧日本軍慰安婦問題」解決のために活動する人など、様々な立場の人がいます。そのような人と関わる中で、一つの問題に対して、さまざまな視点から見つめなおすことのできる力を養うことができます。歴史問題や韓国に少しでも興味があれば、さまざまな学びが得られる授業だと思います！

(宮澤 有伸)

マレーシア実習



たっぷりのナシレマでお腹いっぱいになると、ご飯をねだる野良猫を横目に次の授業に向けてパソコンを開く。そんな毎日でした。マレーシア実習では、マレーシア工科大学で日本語授業を実践します。実際に学生に向き合うと、本当にいろいろな人がいることに気づき、日本語ネイティブとして何を伝えられるのか、どうすれば楽しい活動になるのかと考え続けました。決して楽な日程ではありませんでしたが、学生が自分たちの教えた日本語を使う姿を見るたびに、達成感とやりがいを感じました。授業以外では学生と普通の友達として交流することも多く、滞在中に迎えた二十歳の誕生日も三回祝ってもらいました。あたたかみのあるマレーシアでの三週間は、今でも私の大切な心のよりどころです。

(松村 真麻)

遠隔日本語支援



この実習では、県内の外国にルーツを持つ小中学生にオンラインで日本語支援を行います。授業では、ゲームや会話をしながら、日本語の勉強をします。週ごとにテーマや教材を変えたり、子どもレベルに合わせて活動内容を工夫したりと、授業づくりの面白さも味わえます。先輩サポーターとチームになり

授業内容を考えるため、はじめてでも安心して授業を行うことができます。子どもたちが日本語で伝えられることが増え、自信をもって発言できるようになる瞬間に立ち会えるのが、この実習の大きなやりがいです。日本語教育に興味がある人はもちろん、教育やことばに関心がある人にもおすすめです。私たちと一緒に子どもたちの学びに関わる経験をしてみませんか？

(松井 遥香)

修了証プログラム

これからの日本社会は、外国人と共に学び働く機会がますます増えていきます。国内外で活躍する留学生や、生活者としての外国人、日本語学習が必要な子どもたちを、地域で包括的に支える態勢が求められています。そのような多文化共生社会に向けて、日本語・日本文化学類は、以下の2つのプログラムを開設しています。

●「登録日本語教員」養成プログラム

「登録日本語教員」は、多くの外国人に質の高い日本語教育を提供できるよう、2024年にスタートした文部科学省認定の国家資格です。本プログラムは、文部科学省から認可を受けて実施されており、養成課程の25単位を取得することで国家試験の基礎試験が免除され、また、国家資格に必要な実践研修を合わせて受講することが可能です。日本語教員に必要な専門性の高い知識と実践力を保証するものです。

●「日本語学習支援者」養成プログラム

外国人児童生徒への支援ができる学校教員や、生活者としての外国人を支える地域のボランティア等、国内で多様化する日本語学習者と関わる際に、日本語教育のごく基礎的な資質・能力を有していることを保証するものです。



チューター制度・留学生

チューター制度

留学生が日本で不便なく生活が送れるように、個人レベルで支援を行うのがチューター制度です。日本語・日本文化学類ではこのチューター制度の活用に関わり、多くの学類生がチューターとして留学生の支援に関わっています。

チューターの具体的な役割は、留学生の学習・研究の補助（予習・復習の手伝い）を中心に、日本語学習の支援、日常生活のサポート（学内外の案内、買い物の補助）などを行うことです。また、歓迎パーティーや交流パーティーなども企画し、親睦を深めています。チューター制度は決して日本人学生から留学生への支援という一方的なものではありません。日本人学生もチューターを経験することによって、日常的な交流の中から日本語・日本文化の伝達や異文化理解についていろいろなことを実感し、また学ぶことができるものと思います。



体験記

吉田花 & 卓玲菘

私がチューターを担当したのは台湾からの留学生で、ニックネームは「ゆなさん」です。日本語はとても上手でしたが、もっとうまくなりたいという向上心にいつも刺激をもらっていました。ゆなさんの日本語を勉強する姿勢を見て私も第二外国語の中国語を頑張ろうという気持ちになり、実際に中国語の発音や文法をたくさん教えてもらいました。他にも、アルバイトで使える中国語など、授業では習わないようなことも楽しく勉強することができました！また、ゆなさんと話す中で自分の日本語を見直すことができました。「すごい」と「すごく」、「すげー」の使い分けを教えて欲しいと言われて、一緒に何個も例文を作りどのような違いがあるのか考えたことはすごく楽しかったです。今までまったく気にせず使っていた言葉の違いや、母語話者でない人から見た日本語を知ることができたのはとても貴重な経験でした。海外の言語や文化に興味がある人はぜひチューターに挑戦してみてください！

(吉田花)

小松原結依 & バカカン

中国からの留学生のカカンさんとは、一緒にご飯に行ったり体育の授業を受けたりして、すぐに打ち解けることができました！チューター活動を通して、カカンさんから中国の文化を学んだこともあります。自分から日本文化を発信するだけでなく、日本の音楽アーティストやスポーツ選手といった共通の話題を一緒に共有できたことがとてもうれしかったです。チューターは留学生間で行われる懇親会や学外研修に参加することもできます。このような活動を通して、自分が担当している留学生だけではなく様々な留学生と交流できたことは、自分にとって貴重な経験になりました。チューターは誰でも参加することができます。私自身千葉県から電車通学しながらの活動でしたが、カカンさんと連絡を取り合いながら、無理なく責務をまっとうすることができました。異文化を学びたい、交流の輪を広げたい、日本文化を発信したいという方は、ぜひチューターに挑戦してみてください！

(小松原結依)



留学生

日本語・日本文化学類は、短期留学生・日研生・正規生（JE生含む）など、世界各地から数多くの留学生を受け入れています。日中の学生は、チューター制度や合同授業等を通じて留学生と触れ合う機会が非常に多く、毎日が国際交流です。

【日中の留学生数】（2018～2025年度）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
短期留学生	35	38	3	10	22	22	28	15
日研生	4	1	3	3	4	6	4	5
正規生（JE生含む）	2	2	2	2	4	4	4	5

※当該年度に受け入れ、入学した人数。2020年～2022年はコロナ感染拡大による入国制限のため受入人数減少。

留学生出身国・地域（1990-2025年度）

アゼルバイジャン	インドネシア	カザフスタン	スウェーデン	タジキスタン	ブラジル	マレーシア
アメリカ合衆国	ウクライナ	カンボジア	スペイン	チェコ	フランス	ミャンマー
イギリス	ウズベキスタン	キューバ	スリランカ	中華人民共和国	ブルガリア	メキシコ
イタリア	オーストラリア	クロアチア	スロバキア	ドイツ	ベトナム	モンゴル
イラン	オーストリア	コロンビア	スロベニア	トルコ	ベラルーシ	ラトビア
インド	オランダ	サウジアラビア	タイ	ハンガリー	ペルー	リトアニア
		シンガポール	大韓民国	フィリピン	ポーランド	ルーマニア
		スイス	台湾	フィンランド	香港	ロシア

【日研生】

日本語・日本文化学類は、筑波大学での「日本語・日本文化研修留学生（日研生）」の受入組織となっています。日研生とは、日本国政府（文部科学省）の奨学金により、日本の大学において日本語能力および日本事情、日本文化の理解向上のための教育を受ける留学生です。自国の大学で日本語や日本文化に関する分野を専攻としている学生が対象です。



日研生は1年間の留学の成果として修了レポートを執筆します。指導教員や大学院生チューターからのアドバイスを受け、執筆に取り組みます。



最近の修了論文／修了レポート

- ホラー小説における怪談と実話的な要素の影響
- 「させていただく」表現における新用法の使用実態
- アニメやゲームにおける関西弁の英語への翻訳
- 韓国の犯罪映画の中の卑俗語の和訳について
- 大学の国際化に関する意識調査
 - 異文化コミュニケーション能力の育成における日本人学生の経験と視点から—
- ビデオゲームにおけるヤクザの表象
- コスプレ衣装制作技術の発展とコミュニティの影響
- 日本におけるパッケージング
- マレーシアにおける日本語学習ニーズ—国費留学生を中心とした調査—
- TikTokにおける日本語のコメントの英訳
 - 文化的ニュアンスの保存におけるAIを活用した機械翻訳の検証—
- 日本におけるオーバーツーリズムの現状と課題—持続可能な観光を目指して—
- オニとディヴをめぐる日本とイランの文化比較

【JE生】

「Japan-Expert（学士）プログラム日本語教師養成コース」の正規生として4年間在籍します。母国の日本語教育の振興に貢献する日本語教師の育成を目的とします。日本語教育インターンシップに参加し、現場での実践力を養います。

詳しくは、<https://jp-ex.tsukuba.ac.jp/>「筑波 JE」で検索！

海外留学

日本語や日本文化を客観的にながめる目を育て、世界に発信する力をつけるために、ぜひ在学中に一度は海外留学することをおすすめします。一年生のうちから海外留学の時期について考え、準備を進めていきましょう。世界はあなたを待っています！



交換留学制度

筑波大学は、68か国・地域の大学や研究機関と395協定（CIC13、大学間184、部局間198）を締結しています。（2026.2.6現在）

協定校への交換留学には、さまざまなメリットがあります。

1. 休学せず渡航できるので、計画的に単位を履修すれば4年間で卒業できる。
2. 留学先の取得単位は、一定の条件をクリアすれば卒業単位として互換可能。
3. 各種奨学金制度を利用しやすい。
4. 授業料相互不徴収に関する協定が締結されていれば、留学先の授業料免除。



協定校の一部

中国／北京大学、湖南大学、澳門大学 台湾／国立政治大学 韓国／順天大学校、梨花女子大学校、韓国外国語大学校、啓明大学校 タイ／タマサート大学 ベトナム／ベトナム国家大学 マレーシア／マレーシア工科大学 オーストラリア／ディーキン大学 カナダ／プリンス・エドワード島大学 アメリカ／オハイオ州立大学 メキシコ／グアダハラ大学 ペルー／カトリカ大学 トルコ／ボアジチ大学 エストニア／タリン大学 英国／シェフィールド大学 ドイツ／パイロイト大学 フランス／パリ第八大学 ポーランド／ヤギェウォ大学 ラトビア／ラトビア大学 リトアニア／ヴィリニウス大学 スロベニア／リュブリャナ大学 ウクライナ／キエフ国立大学 ウズベキスタン／タシケント国立東洋学大学 カザフスタン／カザフ国立大学、ユーラシア国立大学

詳しくは、<https://ssc.sec.tsukuba.ac.jp/ies-top/go-abroad-top>「筑波大 海外留学」で検索！

体験記

中山 澄伶【ドイツ・カッセル大学】

世界は思っているよりも広く、やりたいと思っていることをやり遂げる手段は意外にも数多く存在します。2024年6月～7月、大学の提供するプログラムとは別に、私はドイツのカッセル大学が開講するInternational Summer University (ISU) というサマーコースを受講しました。私が3年生の時です。日日では演習授業が増える時期で、それらをきちんと履修し、欲を言えば4年で卒業したい。けれどドイツの児童文学にも興味があるから留学もしてみたい。そんな私に、ひと月の間だけ特定分野に集中して学べるサマーコースはぴったりでした。しかも、カッセル大学は、ちょうど私が興味を持っていたグリム兄弟・童話をテーマにしたコースを開講していたのです。

サマーコースの中で学習した、グリム童話のような昔話を話の筋によって分類する研究を、帰国後の私は卒業論文のテーマにしました。留学するまでは、出会えるとも思わなかったテーマでした。

留学には様々な懸念がつきものです。金銭的負担、進路への影響、取られる時間の多さ、そして何より先行きが分からないのは不安なことです。それでも、そういった不安を軽減できるような制度や選択肢は、手を伸ばせばきっと見つかります。ぜひ立ち止まることなく、後悔の無い大学生活にしてください。



卒業論文

卒業論文は4年間の学生生活を締めくくる、大学における学業の総決算と言えます。若い感性でさまざまに吸収してきた滋養を基にして、ひろくアンテナを張りめぐらし「問題」を発見します。その課題の解決法をあれこれと試行錯誤しつつ導き出す過程を、分析的に説明することが求められます。漠然と分かっているつもりのことでも、思考を言語化して説明することは非常に苦しいことです。しかしこの苦しみを通してしか「唯一のもの」の創造は生まれないのです。この創造の実感はきっと皆さんの人生のなかでももっとも充実したものとなるにちがいありません。

論文のスケジュール



卒業論文題目 最近の卒業論文題目(一部紹介)

- 豊前方言における「じゃら」「ちゃ」「やん」の使用実態
- 「かなと思う」の使用環境と使用効果
—「と思う」「かと思う」と比較して—
- 新聞記事の「タイトル表現」の時代変遷
- 日本人大学生の言語教育観に関するピリーフ研究
—多文化共生社会の観点から複言語主義の文脈化に向けて—
- 「ダジャレ」の面白さを引き出す要素についての分析
—話者の音声の個人性情報に着目して—
- 国語科における包摂的教育の実現に向けた実証的研究
—国語教科書と日本語教科書の計量的比較分析に基づく検討—
- 国会会議録にみる外国人児童生徒言説の変容
—政策文脈と社会背景の視点から—
- 江國香織作品における「少女性」と女性同士の親密性について
- 宇佐見りん『推し、燃ゆ』における、現実を生きる身体と虚構の自己について
- 日本における在日コリアンに対するレイシズムの現状
—Xの分析を通して—
- 岐阜県東濃地方における地歌舞伎の保存継承についての調査研究
- 地域社会における生業の変容と適応
—京都府舞鶴市神崎地区を事例として—

昭和63年度からの卒業論文一覧は、HP (<https://www.japanese.tsukuba.ac.jp/sotsuron/>) で、「筑波日日」で検索!

体験記

小口 桃佳【題目:新学習指導要領における和歌教育の実践—百人一首を用いた授業提案—】

卒業論文を執筆する上でとても助けになったのは総合演習の時間でした。総合演習とは、3年生の時に一年間の演習授業です。ここではグループごとに論文の書き方や先行研究の調べ方などを学んだり、興味のある分野に関する先行研究を調べて発表したりと、卒論を書く上で欠かせないスキルを学ぶことができます。この総合演習の最大の利点は、同じ分野に興味のある学生でグループが構成されているため、学生や先生に相談がしやすいという点にあります。実際に私も研究の方向性について悩んでいた際に、同じ和歌を扱うグループの友人に相談し、一緒に悩んでもらったことがありました。その友人とは4年生になっても研究のことで相談をし、意見をもらうなど、執筆の励みとなっていました。

卒業論文は4年間の集大成。不安に思う方も多いと思います。それでも好きなことを自由に研究できる機会はとても貴重な経験です。日日ではテーマ決めから論文提出まで、友人や先生方と相談しながら行える環境が整っています。みなさんもぜひ日日で「好き」をとことん研究し尽くしてみてください!



卒業後の進路

日本語と日本文化を総合的に学び、異文化交流にも深い理解を持つ日本語・日本文化学類の学生には、社会のさまざまな分野での活躍が期待されています。その期待に応え、これまでの卒業生は、各々の希望や適性に最も適した道に進んでいます。

主な進路

最新の情報は、<https://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/> 「筑波大就職」で検索!

一般企業

ここ数年、卒業生の約半数が一般企業に就職しています。職種・業種ともに多岐に渡り、教育サービス業(教材出版販売、教育システムサービス、語学学校、等)、情報サービス業(情報通信システム開発、コンピュータソフトウェア開発、等)、流通・小売業(スーパー、コンビニ、等)や報道・出版業(新聞社、出版社、等)に就職しています。言語・文化両方にわたる視野の広さという、本学類の特質を仕事に活かすことが期待されています。

日本放送協会/テレビ朝日映像株式会社/日本経済新聞社/株式会社朝日新聞社/凸版印刷株式会社/学校図書/光村図書出版/株式会社ポプラ社/ベネッセコーポレーション/NTTデータシステム技術/野村證券株式会社/あおぞら銀行/群馬銀行/足利銀行/横浜信用金庫/日本郵政/日本航空株式会社/関東鉄道/佐渡汽船/ホテルオークラ東京ベイ/株式会社東急リゾートサービス/丸紅/丸井グループ/JTB/エイチ・アイ・エス/日本武道館/三井記念病院

教師

本学類では、中学校・高等学校の国語科の一種教員免許が取得できます。学類生の多くが教員免許を取得し、5~6名が実際に教師になり、言語学的な面に強くしかも日本語教育の素養もあるユニークな国語科教員として活躍しています。

また、卒業後すぐに日本語教師として日本語教育に従事する者もいます。しかし、現在、大学や研究機関などの高等教育機関で日本語教師の職を得るためには、国内外を問わず修士以上の資格が求められるので、日本語教師を目指す人の多くは、学類卒業後、大学院を経て日本語教師として活躍しています。

茨城県公立高等学校/福島県公立中学校/栃木県公立中学校/群馬県公立中学校/埼玉県公立高等学校/神奈川県公立中学校/山梨県公立高等学校/長野県公立高等学校/富山県公立高等学校/静岡県公立中学校/岐阜県公立高等学校/宮崎県公立高等学校/学校法人東京聖徳学園/星野女子高等学校/明星学園高等学校

国立研究開発法人・独立行政法人

国際農林水産業研究センター/環境再生保全機構

公務員

幅広い教養と広い視野を身につけて、公務員(県庁・市役所職員、裁判所職員、等)の道に進む卒業生も毎年数名います。

総務省/文部科学省/厚生労働省/筑波大学/茨城県庁/福島県庁/埼玉県庁/千葉県庁/東京都庁/愛媛県庁/佐賀県庁/つくば市役所/土浦市役所/成田市役所/さいたま市役所/沼津市役所/静岡市役所/豊橋市役所/茨城県警察本部/広島県警本部

進学・留学

学類での勉強の後、さらに専門分野の研究を続けたい場合、また、修士や博士の学位を得てより高次の専門職につきたい場合は、大学院に進学することになります。語学力を高めたり、さらに専門的な知識を深め、実践的な経験をつむために海外の大学・大学院に留学する人もいます。

大学院修了後の就職先は、国内大学教員では、筑波大学、東京大学、首都大学東京、群馬大学、広島大学など、海外大学教員では、中国の大連大学、韓国の興信大学、イタリアのカターニア大学など、世界中で広く活躍しています。

筑波大学大学院人文社会ビジネス科学学術院
人文社会科学研究群

- 人文学学位プログラム：歴史・人類学サブプログラム、文学サブプログラム、言語学サブプログラム
- 国際公共政策学位プログラム
- 国際日本研究学位プログラム

筑波大学大学院人間総合科学学術院
人間総合科学研究群

- 教育学学位プログラム：次世代学校教育創成サブプログラム(国語教育領域)、国際教育サブプログラム

筑波大学大学院理工情報生命学術院
生命地球科学研究群

- 地球科学学位プログラム

北海道大学/大阪大学/東京外国語大学/東北大学/早稲田大学
海外 英国ノーザンプトン大学大学院



先輩の声

丸山 陽菜 (愛媛県立今治西高等学校国語科教員)



「古典って役に立ちますか？」私は現在、高校の国語教員として働いてのですが、生徒からこんな質問をよく投げかけられます。英語や科学などに比べて、文学を学ぶ意義

は目に見えにくいのかもしれませんが。私はこの質問に対し、「古典学習は、異文化交流なんだよ。」と返答しています。これは、日日での学びを通して、私なりに探し出した答えです。

在学中、私は異文化に触れる機会に多く恵まれました。チューターをしたり、マレーシア実習に参加したり。多様な背景や価値観を持つ人々と対話することによって、私の中で凝り固まっていた「当たり前」は何度も崩れ落ちました。日日で自分自身や「日本」を客観的に見つめ直してみようと試行錯誤した経験は、視野を広げる上で本当に大切だったと感じています。先人の思想が詰まっている古典も、現在の考え方を相対化するための「異文化」になり得るのではないかと思います。未来を担う生徒たちには、自分の「ものさし」を絶対視せず、多角的に物事を考え、寛容な姿勢で他者と関わることができるようになって欲しいです。まずは、古典の面白さ、学ぶ意義に気づいてもらえるように頑張りたいです。

松山 宗一郎 (独立行政法人 環境再生保全機構)



私が日日を志望したきっかけは、「日本の歴史や文化に興味があったから」という単純かつ漠然としたものでした。しかし日日での学生生活を通じて、その抽象的な関心事は具体

化されていき、卒業後に環境分野の政策実施機関で勤務するまでに明確になりました。

私は現在、環境省所管の独立行政法人で環境政策に係る様々な分野の業務に携わっています。令和7年4月からは、同月に施行した法律に基づく新規事業として、企業の森や里地里山等の様々な自然環境を「自然共生サイト（生物多様性を増進する活動が実施されている区域）」として、認定するための審査業務を行なっています。

学生時代から農山村に赴くことが好きだった私は、日日での多様な分野の授業を通して、日常の何気ない言葉（方言や訛り等）や風景（都市景観や自然環境等）が、日本やその地域ごとの生活様式や文化と密接に結びついて、成り立っていることに気づきました。中でも「里地里山」という人為的な介入によって成立する、自然環境の社会的な役割にとりわけ強い関心を持つようになりました。

日日での学生生活は、皆さんの関心事を明確にするきっかけやヒントをたくさん与えてくれるはずです。卒業生として、皆さんが日日で自分の関心のあることを深めるきっかけを見つげられることを願っております。

高橋 佑歩 (東日本旅客鉄道株式会社)



きっぷを売り、お客さまをご案内する業務は、一見すると日本語や日本文化とかけ離れているように見えるかもしれませんが。しかし、駅員の仕事は、観光流動を促すポスターを自

作したり、駅のイベントを企画したりと、皆さんの想像以上に多岐にわたっています。世の中の仕事の多くは、日日で学ぶ内容と直接的な関連性が見出しにくいですが、それは、見えているのが仕事の氷山の一角であるためです。

日に進学して、「自分が今まで見てきた日本」は、実際のごく一部であったことがわかりました。それは世界各国からの留学生を含めた、多様な価値観を持つ学友との触れ合いや講義から得られた結論です。高校までとは異なり、大学では自分の思い付かないような新鮮な見方・考え方に触れ、それを蓄積することで、自分の考え方がアップデートされたと感じます。

日日で得られる多角的な知識は、どんな仕事にも活かせる確信しています。あらゆる選択に対して自身の糧となる、ここ日日で学生生活を送ることをお勧めします。

竹内 里緒子 (株式会社 朝日新聞社)



新聞社と聞くと、言葉を扱い、社会や文化に切り込む、日日と繋がりの深い仕事のように感じるかと思います。実際、私も「学んだ知識を活かせるかもしれない」という思いが入

社を決めた一つの理由でした。ですが、社会人三年目の今、具体的な知識が直接仕事の役に立ったことは、思ったほどはありません。というのも、社会に出て求められるものは、具体的な知識以上に、物事への多角的な視点や感性であることが多いからです。

日日での4年間は、日本語・日本文化というフィルターを通して、それらを大いに養ってくれたと思っています。知識を詰め込むという淡白な学びではなく、多様な人やモノに触れ、仲間と考え、自分の中にたくさんの物差しを作っていくことができました。

学類名からは狭く深い学問の印象を受けますが、得られる視点や感性は、社会に出てからも役に立つ汎用性のあるものだ実感しています。

日日での学びから、新たな発見と気づきが得られるはず。好きなものを好きだけ学び、知らないものに驚き、これからの繋がる視点や感性が身に付く場所になることを望んでおります。

まだまだ知りたい 学類Q&A

学 習 編

Q どんな授業がありますか？

A 一般的に、先生方が授業の趣旨にそった内容について「講義」をする光景が思い浮かぶと思いますが、他にも「演習」や「実習」などがあります。

「演習」とは、各自に時間が割り当てられ、学生が発表していく形式の授業です。ある事柄に対して自ら疑問を持ったテーマについて調べ、考察し、その成果を授業の中で発表するというものです。個人発表やグループ発表など形態は様々です。多くの文献にあたり、分析力を身につけられるので、研究することの楽しさを実感できるでしょう。

「実習」とは、現地に出かけて調査を行ったり、実際に教壇に立って日本語を教えたりする、いわば実践型の授業です。海外の教育機関で研修をしたり異文化交流をしたりするものもあります。机上の学問だけでなく、実際に現場を見たり、経験したりすることで、新たな視点を切り開いていくことができます。

Q 外国語には何がありますか？

A ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語・韓国語から1つ選択し2年間学ぶ「初修外国語」が必修科目です。さらに語学の実力を付けたい場合は、2年生以降、各言語の中級や上級を履修することもできます。もちろん英語も必修科目で、2・3年生では、より高度な内容を扱い、実践力をつけていく「専門英語」もあります。

Q 大学図書館について教えてください。

A 筑波大学図書館は、全国有数の蔵書数を誇り、毎日、多くの学生や教員が学習や研究に利用しています。館内には自習スペースや勉強会用セミナー室もあります。また、自宅からでもオンラインで、文献情報の検索や貸出予約・延長ができたりします。多数のデータベースへのアクセスや他の大学図書館との相互貸出も行っており、高度な研究のためには欠かせない存在です。

Q 海外日本語教育実習は誰でも参加できますか？

A はい。「日本語教育国際研修」の標準履修年次は2~4年生で、例年、ほぼ希望通りに参加することができています。とはいえ、いきなり日本語を教えることは難しいので、他の日本語教育に関する基礎的な授業でしっかり学んでから挑戦することが望ましいでしょう。応募多数になった場合は、それまでに履修した科目や成績が選考基準となります。

Q 他学類の授業は履修できますか？

A 日本語・日本文化学類の授業だけでなく、他のどの学類でも自分の興味のある授業を自由に受講することができます。ただし、卒業単位(124単位。JE生は135単位)として認められる他学類の授業単位数には、上限があります。

Q 試験はどのように行われますか？

A 試験(確認テスト)の形式は、授業によって先生によって様々です。普通のテストのような形式だけでなく、自分の考えを論理的にまとめる形式のものもあります。必ずしも明確な"正解"はなく、自分の考えを、筋道を立てて述べられるか、ということも問われているのです。レポートが課されることもあります。授業と関連のあるテーマが設定され、それについて自分なりに調べて分析するものや、授業内容に関する自らの考えを述べるものなどです。

Q 教員免許を取得したい場合はどうしますか？

A 教員免許を取得しようとした場合、「教職に関する科目」を多数履修する必要があります。さらに、「教科に関する科目」も必要ですが、国語(中学校・高等学校教諭一種)の場合、日本語・日本文化学類の開設科目から履修すれば、卒業単位としても教職単位としても認められるので、それほど大きな負担とはなりません。実際、日頃の多くの学生が教員免許の取得を目指しており、国語教員免許取得率は、全学で日日が1位です。

生活編

Q 学生宿舎について教えてください。

A 新入生が優先的に入居できるよう配慮された施設です。毎年、1年生の多くが入居して新しい大学生活をスタートさせています。学生宿舎はいわゆる「寮」とは違い、管理は学生自身に任されています。そのため門限や規則などはなく、常識とモラルの範囲内で自由に生活することができます。入り口には認証システムがあり、セキュリティーは万全です。なお、宿舎ではトイレ、炊事場、洗濯室はフロア共用になります。コインシャワーもあります。居住棟の近くには共用棟があり、浴場、理容等が配置されています。水道代、ガス代は不要で、電気代のみ支払います。2年次以降も入居したい場合は、希望者による抽選になります。

Q 留学生との交流について教えてください。

A 筑波大学にはグローバルヴィレッジという一般学生と留学生のシェアハウスタイプの学生宿舎があり、留学生と生活を共にすることができます。また、日日には多くの留学生が在学しており、チューター制度を利用したり留学生交流パーティーなどに参加したりすることで、授業以外にも多くの留学生と交流することができます。

Q 大学には、他にどのような施設がありますか？

A **書籍部**：書籍や文房具などを全て割引価格で購入することができます。

大学会館：郵便局、コンビニ、旅行会社があります。

保健管理センター：内科・整形外科・精神科の診療を、学生証を提示することで安く受けられます。また、必要に応じて他の医療機関を紹介してもらえます。

そのほか、日日授業棟の中には、録音実験に使える防音室、教育実習で使うマジックミラーの部屋と観察室、学生控室や資料室もあります。また、日日学類関係の部屋として、話し合いに使える畳張りの和室や、教室の一角に障子と床の間の茶室もあります。

Q どんな食堂がありますか？

A 筑波大学には様々な食堂があり、定食やカレー、パスタ、そば・うどん、パン屋、ハラルフードなど、構内だけでも20近い食堂を利用することができます。いずれの食堂でも気軽に食事ができますので、いろいろ巡ってみて、自分の好きな食堂を見つけてみるのもいいでしょう。図書館併設のコーヒーショップや屋外のキッチンカーを利用して、授業の合間に一息つくこともできます。

Q 学内でパソコンを利用することができますか？

A 筑波大学では、全学計算機システムのサテライト室（コンピュータ室）が、図書館や学群棟（講義棟）の各所に配置され、学生はそのどこでも同じようにパソコンやプリンタ、スキャナを利用することができます。また、学内無線LANシステム、学生宿舎LANシステム等の設備も充実しており、宿舎でも無料でインターネットに接続することができます。なお、メールアドレスが学生全員に与えられており、学外からチェックすることができます。

Q 学生の交通手段は何ですか？

A ほとんどの学生が自転車を利用します（このページの背景をよく見てください）。大学周辺には宿舎やアパートが多数あり、お店も多数点在するので、自転車があれば不自由のない生活が送れます。中には自動車やバイク等を利用する学生もいます。自動車所有率は、他大学より多いかもしれませんが、学内移動やつくば駅までは、大学循環バスを利用する人も多いです。つくば駅から秋葉原へは、つくばエクスプレスが最短45分と早いですが、大学から東京駅まで行く高速バスも出ています。

Q サークル活動には、どんなものがありますか？

A 筑波大学公認のサークル活動には、大きく分けて「体育系」「文化系」「芸術系」の3つがあります。

体育系サークル：サッカーや野球、テニスといったメジャースポーツから、ヨット、ライフル、アーチェリーまで、様々なサークルが活動しています。

文化系サークル：茶道、映画、将棋から、社会福祉系サークルまで、様々なサークルがあります。

芸術系サークル：オーケストラ、アカペラ、合唱、津軽三味線といった音楽系のものや、舞踏、絵画、焼き物、写真といったものがあります。

入試案内

【入試の詳細】

最新情報は、大学や学類のホームページをご覧ください。

筑波大学ホームページ <https://www.tsukuba.ac.jp/>

日本語・日本文化学類ホームページ <https://www.japanese.tsukuba.ac.jp/>

【筑波大学オープンキャンパス】

毎年7-8月頃に筑波キャンパスで「オープンキャンパス」が、3月末に「春の進学説明会」が行われます。詳細は、日本語・日本文化学類のHPをご覧ください。

アクセス



詳細は、
https://www.tsukuba.ac.jp/access/tsukuba_access.html 参照。
「筑波大 アクセス」で検索!



伝えたい日本がある。



編集後記



最後までご覧いただきありがとうございます。

日文学類での学生生活は想像できましたか？比較的小規模な日文学類では、学生や教員と深いつながりをもつことができます。学生控室で学年を越えて学類の仲間と楽しい時間を過ごしたり、教員に気軽に悩みごとを相談したりといった、この学類ならではの日常を過ごしています。こうしたつながりのなかで、自分の専門を究めながらも多様な視点を取り入れた学びを深めていきます。そんな「日らしさ」を、このパンフレットに凝縮しました。これを読み、日文学類に興味をもってくれた「未来の日日生」の皆さんと共に「日らしさ」を創り出し、いける日を心から楽しみにしています。

最後になりますが、パンフレット制作に際してご協力いただいた全ての方に、この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

2026年度 日本語・日本文化学類公式パンフレット制作委員会
旭静一郎・山田圭太郎・頭島琴音・寺内亜澄・増田静香



筑波大学 人文・文化学群

日本語・日本文化学類

College of Japanese Language and Culture,
School of Humanities and Culture,
University of Tsukuba

〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1

TEL 029-853-6764

FAX 029-853-6839



筑波日日

SEARCH



<https://www.japanese.tsukuba.ac.jp/>



<https://www.facebook.com/tsukuba.nichinichi>



@Nichinichi

